

# 松島交配 **ちぢみこまつ菜** の栽培ポイント

2024年8月 (株) 渡辺採種場

## ■ 品種の特性

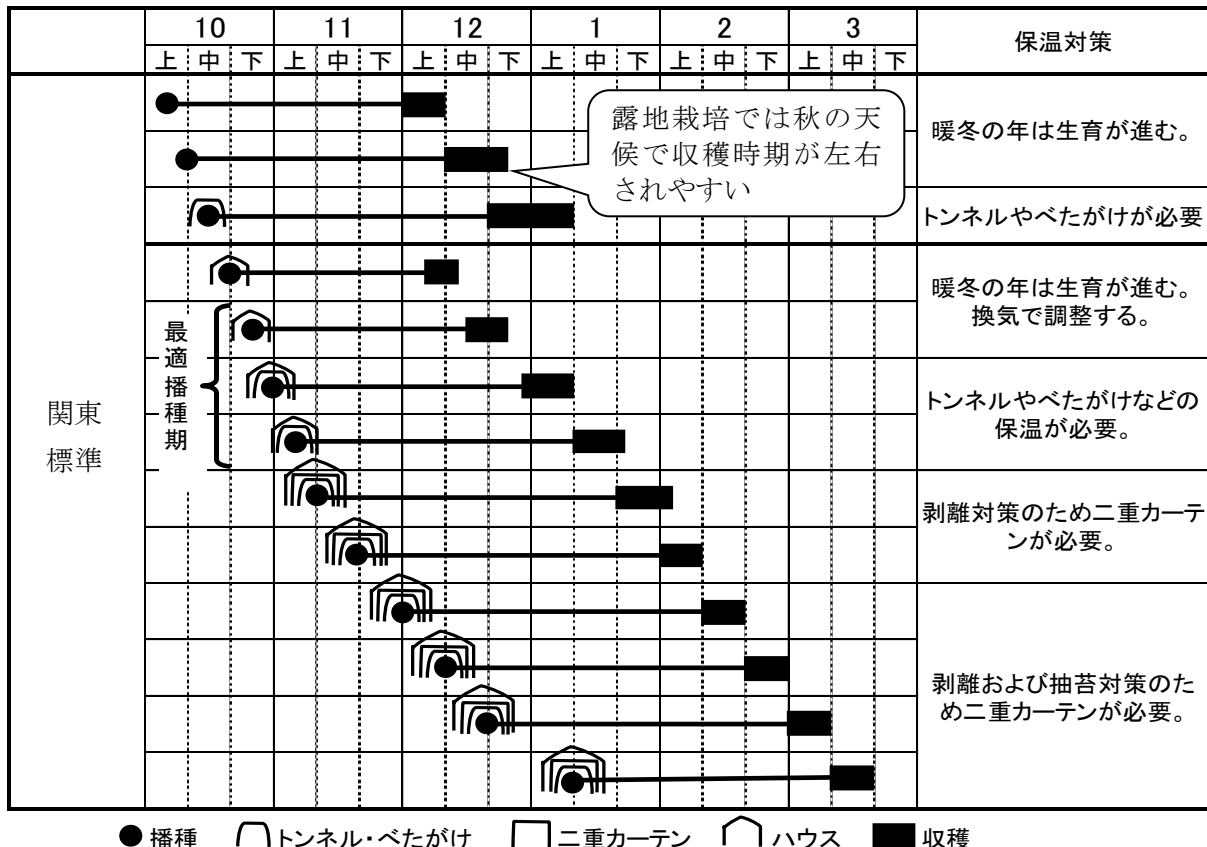
- ① 従来の小松菜より葉が縮んでいます。
- ② 食べたときの歯ざわり良く、食感が優れ、甘みがあり、おひたしや炒め物に最適です。
- ③ 葉身色・葉柄色がとても濃く、葉に光沢があり、袋詰めしたときの見栄えが良好です。
- ④ 株張りが良く、収量性は抜群です。
- ⑤ 生育は従来の小松菜よりゆっくりした中生タイプです。



### ※注意

- 1, 栽培時の温度が高いとちぢみが少なくなり、節間が伸長しやすくなります。
- 2, 抽苔は小松菜の中では早めです。3~4月収穫では抽苔する可能性があります。また、[凍害\(葉の剥離や芯葉の黒変\)](#)が出る可能性があります。[厳寒期に栽培するときは保温に努めてください。](#)
- 3, 葉のちぢみが多いので、葉身が湾曲(カップリング)しやすくなります。
- 4, 草姿はやや開帳性です。

## ■ 作 型



## ■ 土 作 り

小松菜の土壌適応性は広いですが、連作障害を防ぐためや、生育の揃いを良くして一斉収穫しやすくするためにも、土作りは重要な作業です。

- ① 土壌診断を受けてください・・・pH、EC、土壌の種類、各要素の含有量とバランスなど
- ② 有機物の施し方・・・十分発酵させた完熟堆肥を 2t～3t/10a 散布し、深耕します。  
ハウス栽培では堆肥の大量散布によるリン酸過多に注意してください。
- ③ 土壌改良資材の施用・・・日本の土壌は酸性です。小松菜は酸性には比較的強い方ですが、pH6.0 以下の場合は、苦土石灰を施用し pH6.0～6.5 の範囲に調整してください。

### 【排水対策】

圃場の水はけが悪いと生育が停滞します。特に露地栽培では水はけ良好な圃場を選び、心配なときは排水路を作ります。

## ■ 施 肥

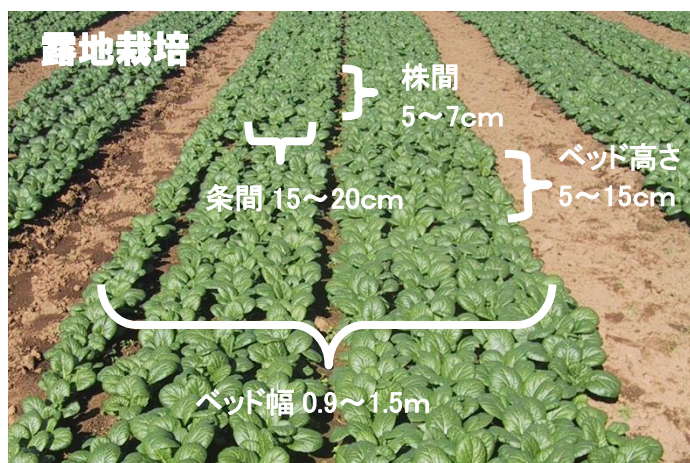
土壌診断で圃場の残肥や肥沃度を考慮し、厳寒期はやや多めに施してください。

露地10a当たり	窒素	りん酸	カリ
年内穫り	12～15kg	8～10 kg	10～12 kg
年明け穫り	15～20kg	10～12 kg	12～15 kg

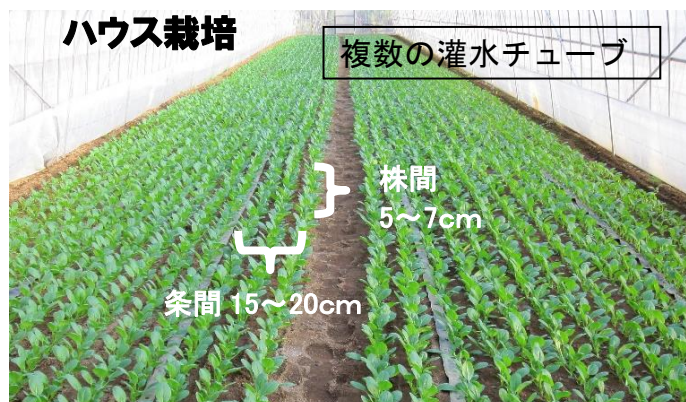
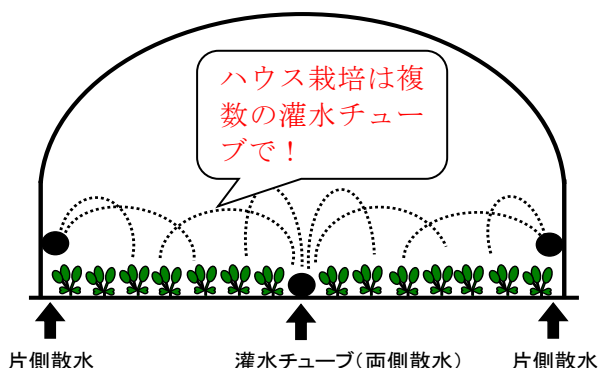
## ■ 播 種

- ① 標準播種量は4～5dl/10a。
- ② 発芽を揃えるのが最大のポイント。圃場の整地や播種作業は均一になるように心がけます。
- ③ ハウス栽培では播種前にたっぷり灌水してください。
- ④ 播種は、播種機(ごんべえ、クリーンシーダーなど)やシーダーテープ(4500m～6000m位/10a)で行うと便利です。
- ⑤ 発芽適温(地温)は 17～25℃です。11～1月播きは発芽しにくいので、ベタがけ資材などを上手に活用してください。
- ⑥ 露地の早まき栽培では、害虫対策のため防虫ネットのトンネルが基本です。低温期は不織布のベタがけやトンネルを利用します。

	条 間	株 間
年内穫り	18～20 cm	6～7cm
年明け穫り	15～17 cm	5～6cm



ハウス栽培での灌水の例



## ■ 栽培管理

【追肥】基本的に追肥は必要ありませんが、葉色が淡くなりそうなら液肥の灌注や窒素分の多い葉面散布剤で対応してください。

【灌水】ハウス栽培では播種前後にたっぷりと灌水し、その後は必要に応じてかけます。収穫後のコマツナの日持ちを良くするため、生育後半は灌水しないようにします。

【ハウス換気】生育適温は15～20℃です。ハウス栽培ではこまめな換気をしてください。

【凍害対策】1月下旬～2月穫りは凍害対策のため、トンネルやべたがけ、二重カーテンの利用をお勧めします。水分が葉に付くと凍りやすいので、灌水は控えめにします。天気の良い日は積極的に換気をし、夜間に湿気を溜めないようにするとともに、軟弱に育てないようにすることで、徐々に耐寒性を付けるようにしてください。



凍害による剥離



芯葉が黒変





不織布トンネル





二重カーテン






【抽苔対策】2月下旬～3月穫りは抽苔(とう立ち)対策のため、トンネルやべたがけ・二重カーテンを利用して保温に努め、土壌条件を良くし、生育を停滞させないようにします。

【病害対策】できるだけ耕種的対策をとることをお勧めします。

	特 徴	防 除 対 策	
<b>根こぶ病</b>	根が肥大してこぶ状になり、地上部は萎れて、やがて枯死して収穫できなくなる。中～高温期に多い。	1, アブラナ科作物以外との輪作 2, 酸性土壌の矯正、排水対策 3, 土壌消毒 4, 殺菌剤	
<b>白さび病</b>	晩秋期のやや低温で湿った時期に出やすい。葉裏に白い盛り上がった塊を作り、やがて胞子が飛び散り、広がる。	1, 雨よけ栽培 2, 排水対策。 3, 殺菌剤	

<b>白斑病</b>	晩秋期のやや低温で湿った時期に出やすい。葉に5～10mmの円～不正形の病斑で、周辺は緑灰色、中央部は灰白色。	1, 雨よけ栽培 2, 排水対策。 3, 殺菌剤	
<b>立枯病 (リソクトニア菌)</b>	露地栽培で多く、株元から腐れが入る。多湿条件で出やすい。	1, 雨よけ栽培 2, 排水対策、高畦 3, 殺菌剤	

【害虫対策】害虫が多い作物です。防虫ネットを利用し周辺の雑草は取るようにしましょう。

	防 除 対 策	
<b>コナガ</b>	1, 防虫ネットのトンネル被覆(1.0 mm目合以下) 2, 殺虫剤	
<b>アブラムシ</b>	1, 防虫ネットで囲う(0.8 mm目合以下) 2, 殺虫剤	
<b>キスジノミハムシ</b>	1, 防虫ネットで囲う(0.8 mm目合以下) 2, 殺虫剤	
<b>ハモグリバエ</b>	1, 防虫ネットで囲う(0.6 mm目合以下) 2, 殺虫剤	
<b>アザミウマ類</b>	1, 防虫ネットで囲う(0.4 mm目合以下) 2, 殺虫剤	

## ■ 収 穫

用途によって違いますが、草丈25～28cm位が収穫適期です。出荷基準についてはJAや市場の指示に従ってください。トンネル・べたがけ栽培の場合は、日持ち性を良くするために、収穫数日前になったらトンネル等を除去し、外気温に慣らしてください。

